

# 文武不岐を目指して

前宮崎県立宮崎商業高等学校校長 河野 眞積

「商業教育活性化への提言」という題をいただいたが、おこがましくて書けないので、今年3月まで校長を務めた宮崎商業高等学校での取り組みを紹介させていただきたいと思う。

## 1. はじめに

本県の公立高校教育は、永年、普・職の割合を5：5としており、総合学科が設置された現在でも、基本的には同じ比率で推移している。ただ、生徒減少期を迎えた現在、地域によっては、普通科の統合や、複数の専門高校を1校の専門高校に統合する計画が進められている。

### (1) 沿革

本校は、大正8年に宮崎町立商業学校として設立され、その後幾多の変遷の後、昭和32年に宮崎県立宮崎商業高等学校として独立し、平成11年に創立80周年記念式典を実施している。

### (2) 学科・学級数

平成16年度の学科・学級数は、3年生が、商業科3学級、情報処理科2学級、会計科2学級、国際経済科2学級の9学級。1・2年生は、国際経済科が1学級減となり、8学級。平成17年度入学生は、会計科が1学級減となり、計7学級となる。男子数は、55名程度在籍しており、学級減にもかかわらず男子の比率は微増している。

### (3) 学校の状況

一般的には、生徒は真面目で挨拶もよくし、服装等もしっかりしており、ルーズソックスやミニスカート等は皆無である。しかし、部活動があまりにも活発なため、進路課外や検定試験のための補習等ができない状況があり、特に、商業科職員にある種の不満が溜まっていた。

## 2. 教育目標の統一化（図式化）

校訓として「克己求道」が制定されたのが平成3年、求める生徒像＝宮商生の4Rが制定されたのが平成13年、しかし、それぞれの思惑で活用され、

生徒・職員の間には戸惑いが生じていたので統一化を図った。

「克己求道」

「人づくり」

### 求める生徒像＝宮商生の4R

- 1 Research  
リサーチ…探求、研究  
自らの生き方を探り主体的に学ぶ生徒
- 2 Relationship  
リレーションシップ…関係、関連  
他を思いやり、互いに支え合い高めあう生徒
- 3 Responsibility  
レスポンシビリティ…責任、義務  
自らを律し、鍛錬を重ね自分に責任を持てる生徒
- 4 Reason  
リーズン…理性、道理  
物事の道理をわきまえ、品位と風格を備えた生徒

生きる力の基礎となる…「学力の定着・向上、読書、感性」

生きる力を自覚する学力…「わかる授業、資格取得」

生きる力を支える体力・気力…「部活動の推進、自主性・自立性の育成」

生きる力の基本となる…「マナー教育」

生きる力を発揮する場となる…「進路実現」

学校

勉強の場

鍛錬の場

育てる場

## 3. 文武不岐

### (1) スローガンの設定

校訓である「克己求道」や「求める生徒像＝宮商生の4R」にしても、崇高な目的であり、生徒も職員も記憶はしているが、何をどうしたら到達できるのか、なかなか具体的に行動しにくいものである。

そこで、校訓や求める生徒像に近づける別の表現として、生徒用、職員用のスローガンを設定した。スローガン設定の方針として「易しく分かりやすい言葉」と「繰り返し使う」という二点を考慮した。「易しく分かりやすい言葉」は、受け入れる生徒・職員が簡単に記憶できるようにするためであり、「繰り返し使う」は、より強烈にすり込みを行うためと、私自身が最大の関心を持っているんだ、だから確実に点検するんだということを知ってもらうためである。

### 生徒 「Only One の宮商生」

部活動で優勝する、勉強で1番になる、上級資格を取得する、全商3種目以上1級合格者となる、思いやりのある人になる、欠席をしない、読書を毎日するなど、何でもよいから、自分自身の個性ある特色を出しなさいと呼びかけた。

### 職員 「生徒に夢を」

「夢を持たせる教育活動」「夢を語る教育活動」「夢を実現させる進路指導」

先生方をお願いしたことは、生徒はなかなか実現可能な夢を描くことができないので、個々の生徒の個性や能力、家庭環境等のすべてを把握し、全教育活動の中で夢を持たせる教育活動を進めることである。そして、生徒自身が夢を考え行動しようとするならば、どんな夢であっても誠実に受け止め、生徒自身に語らせることにより、より堅固な夢と確信させること、またその夢を具現化するためにどのような方法で具現化しようとしているか、方法を知らない場合はアドバイスをすることを特にお願いした。

### (2) 数値目標の設定

社会が学校を評価する場合、①社会での生徒の身なりや服装と言動 ②マスコミ等に取り上げられたニュース ③進路や資格取得等の数字、の3点が考えられる。

学校の評価すべてを数値化することは不可能である。例えば、生徒の服装がきちんとしている、品性が高い、豊かな心を持っている、職員がよく頑張っているなどは数値化できない部分であり、部活動で優勝が多い、進路で実績を残している等は、明らかに数値化できるものである。

社会一般が、学校を評価する場合は、やはり数値化されたものに目を向ける傾向が強いことに着目して、国公立大学合格者数、公務員合格者数、資格取得について数値目標を設定した。公務員合格者と全

商検定3種目以上1級合格者は目標達成したが、国公立大学進学システムもどうか確立される状況になったので、ここ1～2年のうちに30名程度は合格できると確信している(数値項目と結果等は、表1参照)。

### (3) 評価の実施

#### ①授業評価

生徒が、授業を受けるすべての教科担当教師の評価を実施するもので、授業、生徒指導、進路指導等、21項目からなる評価を2学期に実施し、各教師に校長がコメントしながら配布する。この中に、生徒に夢を与える授業がなされているかの項目もある。

#### ②保護者評価

3年生の保護者が、卒業前の宅習期間中に、学校全体に係わる評価を実施する。教育目標や教師の熱意、学校への満足度等9項目を評価し、結果は職員会議の反省事項として次年度に活かしている。

### (4) 「宮商だより」の発行

#### ①校長の考えを理解してもらう

週5日制が本格実施され、行事の精選が進んだが、校長が全校集会等で話す機会は激減した。「校長は挨拶で勝負する」という本が出版されるほど、校長の話には意味と価値があると思っている。その時々考えを「宮商だより」に掲載し、理解と実践を進めてもらっている。

#### ②学校PRと地域の協力

世はまさにPRの時代である。社会や中学校が評価しなければ、入学希望者も増加しないし、レベルも向上しない。PRとともに頑張っている生徒を認め評価してやる場が「宮商だより」である。配布先は、すべての保護者、本校生のすべての出身中学校、県教委は教育長以下すべての課、宮崎市出身の県会議員、学校近辺の地区住民(約1,000戸に回覧板でまわる)。生徒の活動状況(よいことのみ記事とする)が中心であるが、例えば、優勝した生徒等、結果のよかった生徒はすべて実名を掲載し、同時に出身中学も紹介するので、本人はもとより保護者や中学校も大変喜び、励みとなって、なお一層の相乗効果を生み出している。

学校近辺の地区から、敬老の日に吹奏楽部や箏曲部に出演依頼があったり、区長さんや老人会長さんの学校行事等への参加も始まり、地域の協力が得られるようになったのは大変心強いことである。当然このことも「宮商だより」に掲載され、生徒は地域

の方が自分たちを注目していることを知るので、なお頑張ろうと努力するようになってきた。

#### (5) 私の克己に挑戦

本校の校訓は「克己求道」であるが、日頃から、校訓の意味や願いは説明しているで生徒は理解している。しかし、校訓とはそれだけ、つまり、額に入れて飾っているだけでよいのだろうか。スローガンでも「Only One の宮商生」になりなさいと訴えているように、挑戦することは同じ花を咲かせるこ

となのだから、「今年の私の克己」を決めて、それぞれの生徒が「私の克己」に挑戦するように訴えた。

もちろん、指導者がお茶を飲みながら生徒には頑張れでは、生徒はだれも挑戦しようとは思わないだろう。そこで、私自身の「私の克己」として、1年後にハーフ・マラソンを完走することが、私の挑戦だと発表した。まったく運動をしていない状況であるが、最初は100m走ることから始め、毎日毎日練習をした。私が練習をしている姿を生徒も目にするようになり、挑戦しようとする機運が高まったかなと思っている。

表1 数値目標設定項目と数値目標及び実績、部活動の結果

		14年度 実績	15年度		16年度	
			数値目標	実績	数値目標	実績
四年制大学	国公立大学	5	15	10	20	12
	私立大学	53		34		36
公務員合格者 (2等陸・海・空を省く)		2	10	18	20	22
3種目以上1級合格者		56	70	65	90	134 (全国1位)
その他の資格取得状況						
初級システムアドミニストレータ		2				2
基本情報		2				
日商簿記検定	2級	28		27		37
	1級					1
秘書実務検定 準1級		1		3		1
実用英語検定 2級		3		4		11
販売士検定 2級						2

部 名	14年度	15年度	16年度
野球			1年生大会優勝
陸上 男子			南九州ヤリ優勝
陸上 女子		県総体総合2位	県総体総合2位
バスケットボール 女子		県新人戦3位	総体3位 新人2位
テニス 女子	全国総体16位	全国総体8位	全国総体8位
ソフトテニス 女子	県新人優勝	九州新人3位	九州総体優勝
卓球 男子		県総体2位 九州選抜優勝	県総体優勝
卓球 女子		県総体3位	県総体2位
バドミントン 女子	県総体優勝	県総体優勝	県総体優勝
弓道 女子		県総体2位	県総体2位
柔道 女子	全九州3位		
空手 女子	県総体団体型2位	県総体団体型2位	県総体団体型2位
なぎなた	県総体3位	県総体2位	県総体2位
ボート 男子		県総体優勝	県総体優勝
ボート 女子		県総体優勝	県総体優勝
カヌー 男子			全国大会個人6位
コンピュータ	県大会2位	県大会2位	県大会2位
簿記	県大会優勝	県大会優勝	県大会優勝
吹奏楽	県大会金賞	県大会金賞	県大会金賞
ワープロ	県大会総合2位	県大会総合2位	
放送			全国朗読部門3位

掲載してない部（サッカー、バスケ男子、バレー女子、弓道男子、水泳、カヌー女子、珠算、演劇、写真、美術、書道、囲碁、ESS）  
 ◎宮崎県英語ディベート大会 第一回優勝 第二回準優勝（本校以外はすべて普通科高校）  
 ◎16年度留学生（米国3名〈留学〉、中国1名〈卓球休学〉、ロシア1名〈ボリショイバレ－学校休学〉）

#### 4. さいごに

部活動、特に運動部は活発であり、職員も熱心に取り組んでおり、頭の下がる思いで、ただただ感謝するのみである。しかし、入部している生徒は、運動部が約40%、文化部が約35%であるが、毎日練習に励んでいる生徒は約40%程度、他の60%の生徒は特定の曜日のみ活動しているか、事情で部活動のできない生徒である。この60%の生徒に「元気」や「やる気」を与えないかぎり、学校全体として湧き上がるエネルギーとならないし、社会からも部活動のみと評価されてしまうと考えたところから、元気のある学校づくりを目指すことにした。

集団は、2割、6割、2割に分かれるといわれている。最初の2割（A）は、リーダーと共に行動しようとし、6割（B）は全体がどう行動するか様子を見ており、最後の2割（C）はリーダーとは逆の行動をしようとしているといわれて

いる。私は、最初にAからという順番をとらない。最初に全力でBの意識改革を進める。AとBを合体させると、80%の集団がある目的に向かって行動するようになる。そうするとCの2割が、さらに2, 6, 2に分かれ始め、結果としてほぼ100%を統一することができる。これは、生徒も職員も同じことである。

戦前の外国のある政治家が、国民を統一するためにしたことは、「易しい言葉」を「繰り返し使う」、「女性を味方にする」だったそうである。特に大部分の生徒は、難しい言葉や理論的な表現は頭の上を通過させようとする傾向があるので、常に「易しい言葉」で表現し、「繰り返し」話した。それは、全校集会や宮商だよりでも同じことであつたと思つている。

先だつて、皇太子殿下が45歳の誕生日の会見で読み上げられたドロシー・ロー・ノルトの「子ども」のなかに、「激励を受けた子どもは自信をおぼえる／寛容にであつた子どもは忍耐をおぼえる／賞賛を受けた子どもは評価することをおぼえる……可愛がられ抱きしめられた子どもは世界中の愛情を感じとることをおぼえる」とあつた。

仮に、生徒の評価を50点としたとき、「50×1.01」、何でもよい、生徒を認め、プラスの評価で指導していくと、60点、100点と無限大に増加していくが、「50×0.99」、欠点の指導やマイナスの評価で指導していくと、限りなく0点に近づいていく。このことは、職員に対しても同じであり、そのため、職員・生徒に期待の声を掛け続けた。

大人でも子どもでも、自分の存在が認められ、評価されれば、喜び、計り知れないエネルギーを出す。特に、子どもは身の程知らずに伸びようとするもの

だと思つている。

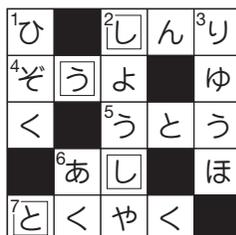
全商検定3種目以上1級合格者を目指す最後のチャンスは、2月6日の商業経済検定であつたが、3年生は2月1日より宅習期間となつてゐた。しかし、公共の図書館や自動車学校等で必死に勉強したとのことである。3年生と話してみると、「全国1位になりたい」という願望が強かつた。もちろん、商業科や3年学年会を中心に、全教師がなんらかの係わりを持ったから達成されたものであることには間違いない。嬉しいことに、3学期末に、2年生の3種目以上合格の該当者が21名、2種目合格者が87名いた。3年生が全国1位になりたいという願望を持ったチャレンジ精神は、2年生にも受け継がれていたのである。

私が最も苦心したことは、学校全体をエネルギーに満ちあふれた行動体とすることであつたが、職員がそのことを良く理解し、生徒に向けた行動を取つたことで、何にでも果敢に挑戦する生徒になつてきたと確信している。

「生きる力」とあるが、この源は、認められること、評価されることである。それは、満足感や達成感を数多く体験させることで得られる、次も頑張ろうというエネルギーだと思つている。

全国的に見れば、もっとも素晴らしい学校はたくさんある。しかし、本当に頑張つた本校生と職員のために、多少なりとも元気のある学校として紹介していただければ、生徒・職員ともに、また一段と元気がだせるし、いくらかなりとも活性化に役立つと思う。

定年間際に生徒から素晴らしいプレゼントをもらい、最高の喜びだつた。



p. 6  
クロスワードパズルの答え：ししとう